

Ota City Architecture Tour

響 振 ～建築の持つダイナミズム～

太田市美術館・図書館、金山ガイダンス、太田市民会館



太田市建築ツアー

Ota City Architecture Tour

主催 まなびテラスおおた
NPO法人ぐんまCSO
共催 太田市、太田市教育委員会
後援 香山壽夫建築研究所、隈研吾建築都市設計事務所、スタジオシナプス、
協力 ayami takada architects、SfG landscape architects
太田市美術館・図書館、太田市民会館
史跡金山城跡ガイダンス施設・太田市金山地域交流センター
助成 太田市1%まちづくり事業
撮影 久保田磨美、西田紀子、松本和明、山田創、笹木理恵
制作 Office Camellia



建物と人との関係を考えてリニューアルオープンした街中のパン屋さん。店舗の一角はまるで公園の様なスペース。境界を曖昧にすることによる新しい公共性、それは「私たち」の場所として開かれた領域を提供してくれる。

はじめに
関東平野の北部、穏やかな地形環境に恵まれたこの地域には、岩宿遺跡の発掘調査で明らかになったように、約三万年前の旧石器時代からヒトが住んでいました。埴輪で唯一国室に指定されている「挂甲（けいこう）の武人」も太田市より出土され、この地域に拠点をおく埴輪製作集団の存在が想像されます。時を経て、太田市は「ものづくり」を中心に北関東随一の工業都市として豊かに発展し続けてきました。

太田市の公共建築においては以前よりプロポーザル方式で設計が行われ、その歳月は実に25年以上にもわたります。結果、内井昭蔵、香山壽夫、隈研吾、長谷川逸子、平田晃久といった日本を代表する著名な建築家の作品に市内のいたるところで出会うことができます。これは県内随一、全国的にも稀なケースと言えます。

その土地の本来的持つ力、人々の営みに耳を傾けながら建築家により設計された建物は、土地の記憶を内包し地域の拠点として私たち市民とともに呼吸しています。これらの良質な建築に触れることにより、人々が地域への誇りを抱き、真の豊かさへと誘（いざな）うことは建築の持つ役割のひとつと言えるのではないのでしょうか。

太田市建築ツアアは、市民で構成される生涯学習・地域活動を目的とする任意団体「まなびテラスおおた」が主催し、『太田市1%まちづくり事業』の補助金により実施されました。

この冊子はその記録だけでなく、これまで訪れることのなかった方へも、建築そのものの持つ迫力やエネルギーを感じ、風土や文化・芸術に触れ、まちの魅力を知っていただく機会となれば幸いです。

ART MUSEUM & LIBRARY, OTA

生態系としての公共のはじまり

太田市美術館・図書館

太田市東本町

平田晃久建築設計事務所



@Daichi Anō



所在地 : 群馬県太田市東本町16-30

開館日 : 2017年4月1日

設計 : 平田晃久建築設計事務所

ランドスケープ : SIC landscape architects 大野暁彦

施工 : 石川建設株式会社

建築面積 : 1,496.87㎡

延床面積 : 3,152.85㎡

受賞歴 : 第31回村野藤吾賞(受賞者:平田晃久)第59回BCS賞、

2017年度グッドデザイン賞 ベスト100(受賞者:株式会社平田晃久建築設計事務所、

オーヴ・アラップ・アンド・パートナーズ・ジャパン・リミテッド)

第17回屋上・壁面緑化技術コンクール 日本経済新聞社賞 他

まちに創造性をもたらす、
知と感性のプラットフォーム

ここにはそれぞれ違った魅力を持ったいくつかの箱があります。それはギャラリーだったり、カフェだったり、雑誌や新聞が読める場所だったり、子どもたちのための読書室だったり、勉強ができるような静かな場所だったり、いろいろです。訪れた人は、それぞれ自分が居心地良く感じる場所を見つけて、それぞれの時間を過ごすことができるでしょう。特徴を持ったいくつかの箱の間を抜けるように歩くのは、街の中を歩くのと連続した楽しい経験です。こうした散策の中で、人は興味のある本や驚きを与えてくれるアートや、太田に関する新しい情報や、様々な友人達に出会うことができます。内部は様々な方向に視線が抜け、行ってみたくなる場所がいま見えるようになっていきます。たとえば図書館しながら美術館でのワークショップが、カフェから図書館の本棚が、駅から図書館のスロープを歩き交う人々の活気がかいま見えます。従来の「図書館」とか「美術館」というかたい殻を脱ぎ捨てた、自由で活気のある、街の中のような場所が生まれます。

(太田市美術館・図書館ホームページより)

Museum of Kanayama Castle Ruin, Kanayama Community Center

豊かな自然と歴史を享受する

史跡金山城跡ガイダンス施設・太田市金山地域交流センター

太田市金山町

隈研吾建築都市設計事務所



© Takeshi YAMAGISHI

日本百名城の足元に

史跡金山城総合整備推進事業において計画された、金山の文化財巡りと金山城の情報発信の拠点である。ガイダンス施設と中庭を介しながら繋げることで回遊性ある空間を形成し、豊かな自然環境を最大限享受することのできるような計画とした。史跡を特徴付けている「石垣」をイメージした幾何学パターンの外壁。緩やかさと力強さが共存するような半屋外空間を設け、あらたな史跡金山城跡の「ゲート」の役割を試みた。
(太田の公共建築ガイドより)

所開施設 延 在館 築床
地目計工 面積 : 1.319.45㎡
面積 : 1.676.89㎡
: 群馬県太田市金山町40-30
: 2009年5月
: 隈研吾建築都市設計事務所
: 関東建設工業株式会社

周辺環境との関わり 新しい公共のあり方

この度の太田市建築ツアーでは、太田市美術館・図書館設計プロポーザルの審査委員長を務められました、前橋工科大学名誉教授の松井淳先生にお話しいただきました。

建築の見方

1980年から今まで著名建築家や設計事務所がデザインした20弱の公共建築物が太田市内に集積しています。優れた建築作品に触れる機会を通じて良い建築物が広まっていくなことは地域の文化醸成には役に立つのだと思っています。そのためにも実際に建築物を見て考え感ることが、建築を知る為に大切だと私は思います。

良い建築とは何か

機能的であること。格好良い様子。例えば、美術館・図書館には多くの市民が集まり施設として充実した使われ方をしています。それは非常に良い建築なのだと思います。

雰囲気・空間(そこに居たくなる)
建築は中に人が入る二次元的な広がりです。で、雰囲気や空間の魅力での評価の仕方もあると思います。

歴史に残る良好な景観の要素
この建物は歴史的にも文化的にも後世に残るような良い建物だという評価もあると思います。このように「良さ」の評価軸は見る人にとって様々です。建築は非常に複合的で複雑な評価を下すことのできるものなので、自分の目で評価ができるようになるくらい多くの建物を見ていただきたいのです。

建築家とは

建築家とは、建築の新たな表現や、自分の建築をもってこれからの社会を良くしたいとの主義主張を持っている人を呼ぶのだと思います。建築は社会的意義や設計者の意図が反映されたものだと考えています。観察をしながら街を歩いてみて下さい。

実際の建築を見て感じたり、考えたり、理解したり、設計者の意図に思いを巡らせてほしいと思います。

これからの建築はどうあるべきか

ダイバーシティ・ボーダレス・バリアフリーなど多様性が求められる現代、建築にも多様なものを目指して皆が共存していこうという意志があるのではないかと思います。

平田さんの設計した美術館・図書館はそのような意志を持った建築だと思います。

街の人々が積極的に参加し、利他的な考えを取り入れて作られている建築が増えてきていく、それが新しい公共性のある方を求めていることという考え方なのではないかと思っています。



松井淳先生による講義
金山ガイダンス施設 1階コミュニティルーム

いま、ここでしか体感できない「特別」に出逢える場所に



光のアトリエ 市民が演じたくなる劇場

まちの姿は時代とともに移り行く。発展しつつある郊外に大胆なスカイラインを切り取り市民会館は荘厳な姿を現します。「まちの姿が変わっても適応する力強くシンフルな外観に」という設計者の建築へ込めた思い。アルミパネルの外観からはものづくりの街が表現されています。

「太陽の光に勝るものはない」設計者は自然光の効果を生かすため、無機質な工業製品ではなく、自然素材を用い手作業で仕上げるよう計画しました。

木目の陰影が強調され表情が豊かなホールコンクリート壁や、塗り手の痕跡が織りなす文様が美しいラウンジの漆喰壁など、人間の手でつくることで現れる微かな凹凸から居心地の良さが生まれるのかも知れません。

この様な設計者の難しい要求を、高度な職人技に支えられた技術力で地元の建設会社で完成させたことは、ものづくりのまち太田人（おおたびと）の精神に刻まれた「心意気」や「誇り」の表れだと感じます。

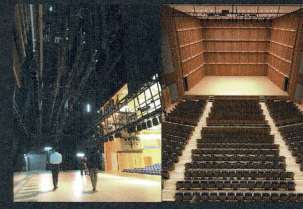
建築ツアーの際には、実際に設計を担当した香山壽夫建築研究所の方より解説を頂き建物に散らばられている技巧と配慮を再発見しました。

ホールではオーケストラピットの動作を特別に体験し参加者の皆さんからは感嘆の声があがるひと時もありました。また、館内のいたるところに光のアトリエと題した写真パネルを配置して頂き、一瞬の中に映し出される「ここでしか体感できない光景」を見学することが出来ました。

プロポーザル方式からつくる街

太田市民会館ではゲストスピーカーとして清水聖義太田市長にご参加頂きました。「市長就任時に「市役所を建設する際に2階建てを12階建てに変更」という事を掲げたが、その削減した費用で地域の行政センターを造ることとした。これが設計プロポーザルを採用するきっかけとなつている。建設にあたり同じような建物を造るのではなく、プロポーザルで建築家を選定し設計することにより、設計の中でワークショップを開くなど住民も参加して地域の特徴がある施設が作られ、活用されている。最近では特に教育施設にも建築家を多く投入し、国際アカデミーでは学年の違う生徒との開かれた教育が最新の設計の中で行われていること」など、多世代が共生していける太田市の未来構想についても語られました。

太田市民会館は昨年の美術館・図書館につき2年連続でBCS賞を受賞しました。



赤い漆喰塗りの壁が印象的なラウンジ。職人さんの手により丁寧に仕上げられた壁は天井まで届き圧巻です。スリット状の窓から差し込む自然光は時間とともに刻々と変化していくよう演出がなされています。天窓から降り注ぐ自然光の陰影が壁や床に映り込み美しい空間です。訪れる度に新しい発見のある場所となっています。

1500席を有するメインホールの舞台上から客席を望む。眼前に広がる眩い至極のブルー。それはまるで美しく輝く青い鱗のよう。天窓から差し込む自然光が、客席を包む煉瓦の壁により光の筋となって降り注ぎ、荘厳な空間をつくります。自煉瓦の壁は積み方を変え凹凸や空洞を作ることで音響をコントロールする役割を果たしています。

クラシックコンサートで使用される音響反射板。舞台を覆うように設置される反響板の仕上げは、地元の家具職人さんの手によるものです。舞台上に上がると高さ30mの空間に反射板や緞帳など様々な装置が格納されていることがわかります。客席の前4列が地下へと降り、舞台機構の中でも大きな装置の一つオーケストラピットが出現します。

階段は自然光を遮らないように柱を設けず、上部から吊り下げて設置。細く繊細に作られた手摺の影が美しい幾何学模様を床に映し出します。

天窓から降り注ぐ自然光が白銀色で塗られたホワイエの壁に、雲海のような情景が浮かび上がらせま

開館日	：2017年4月1日
所在地	：群馬県太田市飯塚町200-1
設計	：香山壽夫建築研究所
施工	：関東建設工業株式会社
建築面積	：4,931.31㎡
延床面積	：8,473.32㎡
受賞歴	：2018年 国際照明デザイナーズ協会賞優秀賞 第60回BCS賞

Architects and facilitators



松井 淳 Jun Matsui

1951年 東京都出身
 1975年 早稲田大学理工学部建築学科卒業
 1977年 早稲田大学大学院修了
 同年 イタリア留学 ミラノ工科大学Vittorio Gregotti 教授の下、設計活動 1981年3月まで
 1982年 前橋市立工業短期大学建築学専攻 講師
 1985年 助教授
 同年 フランス留学 建築家Christian de Porzamparc氏の下 設計活動
 1997年 前橋工科大学工学部建築学科助教授
 2009年 前橋工科大学総合デザイン工学科教授
 2017年 退官 前橋工科大学名誉教授



植木 幹也 Mikiya Ueki

1966年 群馬県出身 一級建築士
 1990年 東京理科大学理工学部経営工学科卒業
 1994年 前橋市立工業短期大学建設工学科卒業
 1993年~2000年 松井淳 + ジオデザイン
 2000年 スタジオシナプス一級建築士事務所設立
 松井淳氏と前橋市立大胡東小学校・基本設計を担当 太田市のパン屋 ヴァンダラストの設計も手がける



高田 彩実 Ayami Takada

1985年 静岡県出身 一級建築士
 2010年 東京大学大学院工学研究科建築学専攻修了
 2011年 平田晃久建築設計事務所勤務
 担当作品に「Photosynthesis (Elita Desgin Award = ミラノ・サローネ最優秀賞)」「太田市美術館・図書館」など
 2019年 ayami takada architects設立
 アートやファッション、ワークスペースなど空間デザインにおける様々な活動を展開



山田 創 Hajime Yamada

1967年 群馬県出身 一級建築士
 2005年 佐藤総合計画
 2007年 三菱UFJリソース勤務 PFI事業のプロジェクトマネジャーとして従事
 2017年 MULリアルティインベストメント勤務 公共不動産の利活用業務に従事
 代表事業：戸塚区総合庁舎(戸塚駅西口第1地区第二種市街地再開発事業) 他多数



笹木 理恵 Rie Sasaki

1969年 太田市出身 Art Coordinator
 2010年 共同アトリエ兼デザイン事務所OfficeCamellia設立
 NPO法人くまみCSO理事 太田市「1%まちづくり会議」委員 アーツカウンシル前橋 事務局員
 当地方における芸術文化の振興発展及び次代への継承を図るため、
 将来を担う子供や若者たちの創造性の涵養に資することを活動目的としている。

まなびテラスおおた Manabi Terrace Ota

市民で構成される生涯学習、地域活動を目的とする任意団体の活動です。
 おおたの「まちのひと」にスポットライトを当てながら、おおたのまちについて知り、交流し話し合う、
 フラットでふらっと立ち寄れるプラットフォーム。
 つながる、再発見!語り合うサードプレイス【タニダ食堂】は月に一度開催しております。
 詳しくは左記のQRコードからFacebookをご覧ください。皆様のご参加をお待ちしております。



右上/太田市美術館・図書館の屋上庭園にて
 右下/太田市民会館、オーケストラピット降下時の様子
 左上/太田市民会館 ホワイエ4F
 左下/太田市民会館 ラウンジ

◎参加者の声

設計者によるその技術的意図を解説して頂くことで
 各々建築物の構造の必然性と質が理解できました。

美術館・図書館の施工業者さんも参加されていて、
 実際に設計された方だけではなく、市内の様々な業
 種の参加者と話しながら回れたことは良かったと思
 えるし、施設がこれまでに以上に身近なものとして感
 じられた。

美術館・図書館のランドスケープデザイン設計者
 が参加者でいらしてお話を伺えました。太田の
 植生調査で確認できた樹種を太田にある圃場(ほじ
 よう)で選出し植栽したということ。普段ありえな
 いほど丁寧な仕事であることは知らなかったのでま
 すます思い入れができました。

松井先生の講義では「良い建築とは?」という切り
 口から、参加している方々の建築に対するリテラシー
 に隔たりを感じさせない内容でした。また、建築に限
 らず誰にとっても生きる上で必要な感性を刺激し
 てくれる講義は素晴らしいと感じました。

建築作品が単に建物としての役割だけにとどま
 らないこともあらためて考えさせられました。あり
 がとうございました。
 太田市民会館では、施設担当者が見学時間帯には
 見られない美しい光の光景写真を並べておいてくれ
 たり、オーケストラピットを下ろしてくれたり、舞台
 にかけてくれたりと貴重な体験が盛りたくさんで素
 晴らしかったです。

ご参加頂いた皆様、この企画に関わるすべての方へ、
 心より感謝申し上げます。